会議の結果要旨

- 1 開催した会議の名称
精華町特別職報酬等審議会（第2回目）
- 2 開催日時
令和6年10月30日（水）午後5時から午後7時
- 3 開催場所
精華町役場 5階 行政委員会室
- 4 議題等
議題1 精華町議会議員の報酬額の改定について
- 5 公開・非公開
公開
傍聴者なし
- 6 出席者
会長 武蔵 勝宏（同志社大学政策学部教授）
委員 高鍋 房美（人権啓発課 女性人材登録者）
委員 古海 りえ子（人権啓発課 女性人材登録者）
委員 田尻 儀久（精華町商工会会長）
委員 中畔 隆史（精華町自治会連合会役員）
- 7 審議等の要旨（議題（事案）の概要及び審議会の結果）

■【議題等の概要】

町長諮問 別添のとおり

議題1について、審議資料の説明、審議、答申内容の決定

審議の主な内容・意見

◆議題1

- 〈田尻委員〉 ◎ 政務活動費の残余の額は返還することになるのか。
→（事務局）残余の額については返還となります。
- ◎ 前回の議会からの説明では、報酬の中から調査等の活動にかかる経費の一部持ち出しがあるとのこと

であったが、その点で言うと報酬をあげるのではなく活動にかかる費用の金額を十分に確保すべきではないか。

- ◎ 改定後の37万5千円の報酬額については、他の町村を大きく超える金額になるのではないかと。現在の社会情勢の中で、議員報酬の大幅な増額について住民理解を得るのは難しいと考える。

《中畔委員》◎ 前回の選挙で無投票になったことで、報酬を上げて町議会議員の魅力が増し立候補者数が増え、競争の中で議会議員が出てくることも必要であるが、同時に人口規模等に対しての議員定数の検討も必要ではないか。

- ◎ 議会からの説明を受けたことで報酬の改定についての必要性は理解できるが、報酬が税金で支払われている以上、住民から理解を得ることが必要であり、大幅な金額の増額は理解を得ることは難しいと考える。

《古海委員》◎ 学研都市としてのまちづくりを考える上で、議会議員には町民をひっぱっていく役割を担ってほしい。政務活動費の執行状況を見たが活用されていない議員もおられるので、もっと活発な政務活動費の収支報告となるよう議員活動に期待したい。

《高鍋委員》◎ 政務活動費の使途についてはオープンにされているので、そちらの金額を増額する方が住民からの理解を得やすい。

- ◎ いろいろなボランティアや審議会の委員の役割を担う中で提言などをさせていただいているが、答え

が返ってこないままのものもある。政務活動費の執行状況を見てみると活用されていない部分もあるようなので、報酬の改定ではなく調査等の活動に必要な部分を充足させることで議会議員活動の活性化に期待したい。

〈武蔵会長〉◎ 報酬の金額については、原価方式での検討も必要であるが類似団体等の比較も必要となるのではないか。

◎ 第1回審議会の報告の中で、「議会改革度調査2023」総合ランキングでも上位にランキングしているとの報告であったが、「住民に開かれた議会」として広報広聴にはどのように取り組まれているのか。

→（事務局）「議会だより」については、紙媒体に加え、ホームページでも情報発信されている。また、テーマ別に各種団体など住民との意見交換会も積極的に取り組まれている。

◎ 精華町の財政状況はいかがか。

→（事務局）歳入は増加している一方で、人件費や扶助費といった固定的にかかる経費の割合が高止まりしており、自由に使えるお金は引き続き少ない状況にある。

■【審議等の結果】

議題1 精華町議会議員の報酬額の改定について

昨今の社会情勢や、精華町を取り巻く状況などを勘案するとともに、住民理解の観点からも現時点での報酬額の見直しについては見送ることが妥当と考える。

次回、令和6年11月18日（月）最終調整及び答申予定